

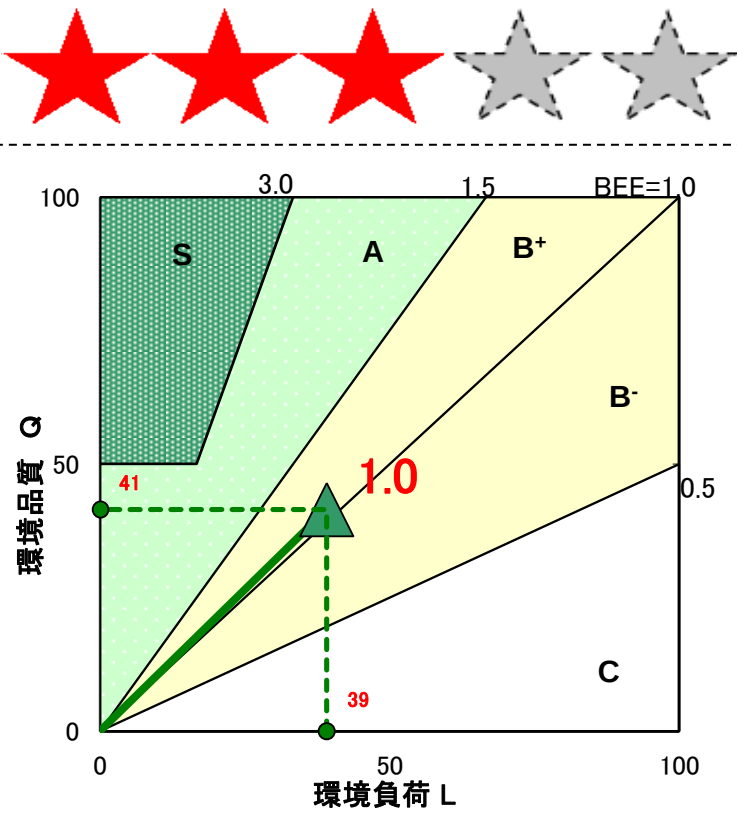
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観
建物名称	(仮称) 琴平2丁目マンション新築工事	階数	地上10F
建設地	熊本市中央区琴平2丁目446-1-1、4	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・第2種住居地域、準第2種住居地域	平均居住人員	90 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場, 集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2014年8月22日
敷地面積	1,230 m ²	作成者	吉永拓郎
建築面積	322 m ²	確認日	2014年8月25日
延床面積	2,398 m ²	確認者	伊東正太郎

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★



■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

92%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



70

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	74.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	67.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	60.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	72.7

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

Sheet : 1/5

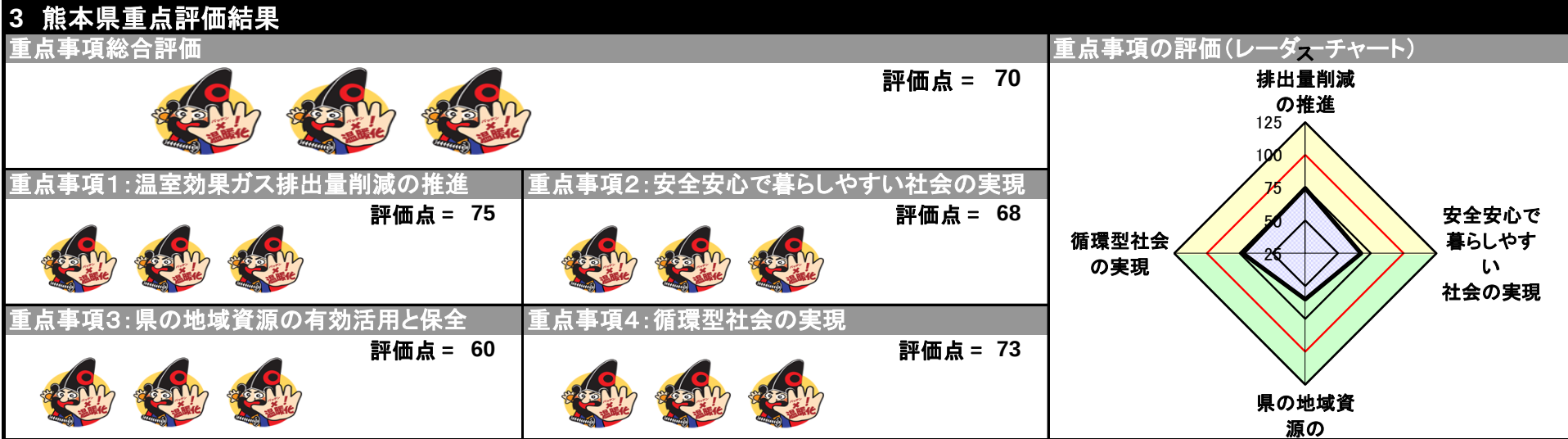
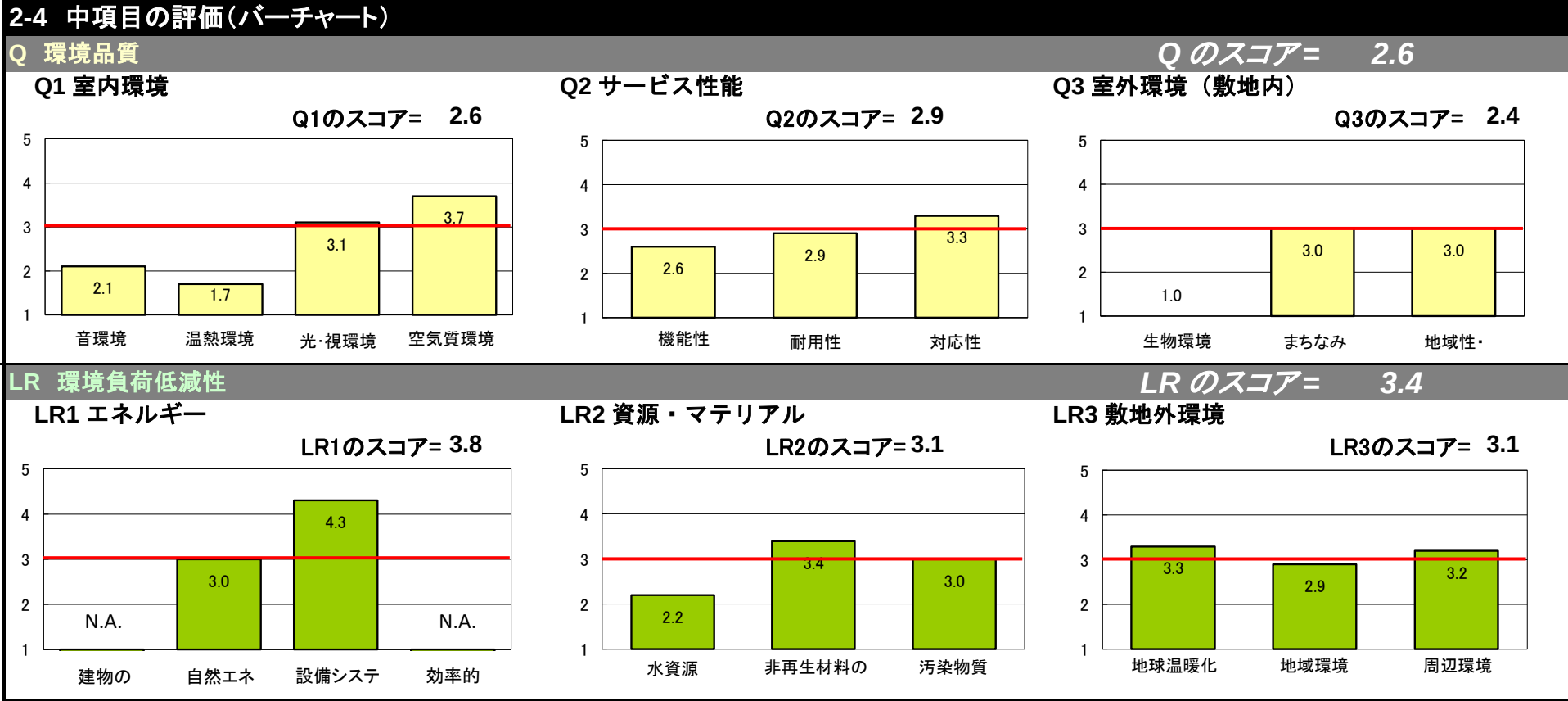
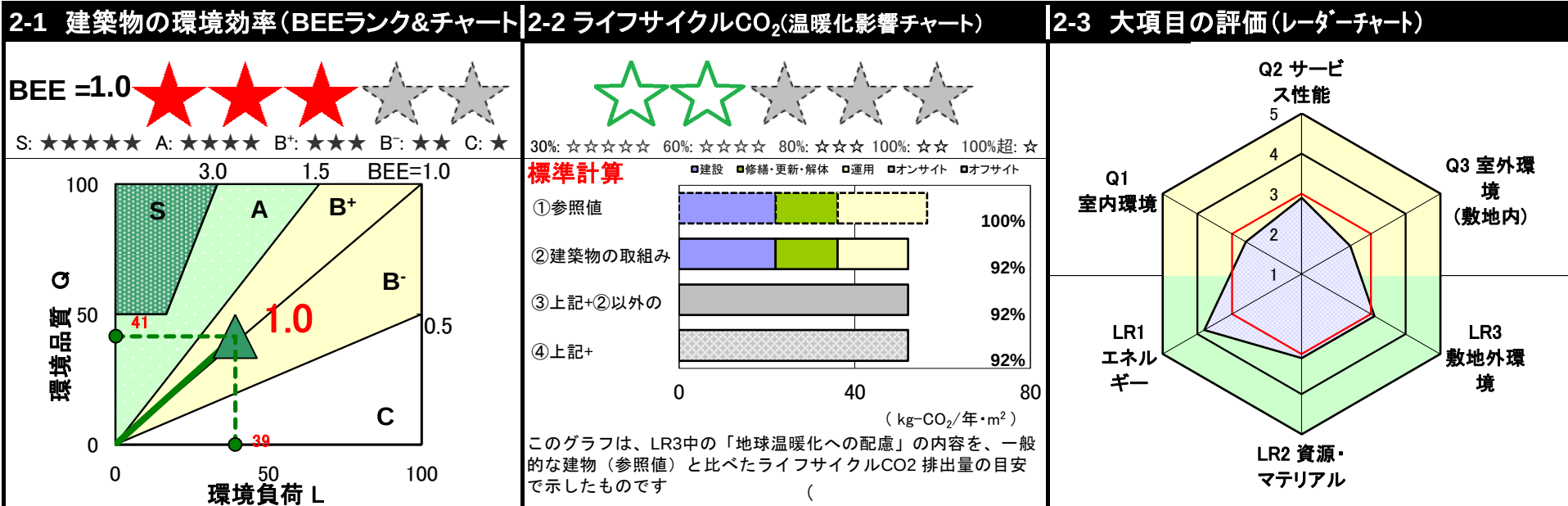
CASBEE®

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(簡易版) 2010年追補版Ver.2 (BPI&BEI両方) | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	(仮称) 琴平2丁目マンション新築工	階数	地上10F
建設地	熊本市中央区琴平2丁目446-1-1、	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・第2種住居地域、準	平均居住人員	90 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場, 集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2014年8月22日
敷地面積	1,230 m ²	作成者	吉永拓郎
建築面積	322 m ²	確認日	2014年8月25日
延床面積	2,398 m ²	確認者	伊東正太郎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補
(仮称)琴平2丁目マンション新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPVBEI対応)
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei\

スコアシート		実施設計段階											
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
						評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質										2.6			
Q1 室内環境							0.39			2.6			
1 音環境						2.0	0.15	2.2	1.00	2.1			
1.1 騒音						3.0	0.50	3.5	0.50				
1 室内騒音レベル		3.0	1.00			4.0	0.50						
2 設備騒音対策		-	-			3.0	0.50						
1.2 遮音		1.0	0.50			1.0	0.50						
1 開口部遮音性能		1.0	1.00			1.0	0.30						
2 界壁遮音性能		-	-			1.0	0.30						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-			1.0	0.20						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-			1.0	0.20						
1.3 吸音		-	-			-	-						
2 温熱環境								1.0	0.35		2.0	1.00	1.7
2.1 室温制御						1.0	1.00	3.0	0.50				
1 室温		-	-			3.0	0.63						
2 負荷変動・追従制御性		-	-			-	-						
3 外皮性能		1.0	1.00			3.0	0.38						
4 ゾーン別制御性		-	-			-	-						
5 温度・湿度制御		-	-			-	-						
6 個別制御		-	-			-	-						
7 時間外空調に対する配慮		-	-			-	-						
8 監視システム		-	-			-	-						
2.2 湿度制御		-	-			1.0	0.20						
2.3 空調方式		-	-			1.0	0.30						
3 光・視環境								2.3	0.25		3.4	1.00	3.1
3.1 昼光利用								1.8	0.30		3.5	0.30	
1 昼光率		1.0	0.60	4.0	0.50								
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30								
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20								
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30								
1 照明器具のグレア		-	-	-	-								
2 昼光制御		2.0	1.00	4.0	1.00								
3 映り込み対策		-	-	-	-								
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15								
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25								
4 空気質環境						3.6	0.25	3.7	1.00	3.7			
4.1 発生源対策				F☆☆☆☆以上		4.0	0.59	4.0	0.63				
1 化学汚染物質		4.0	1.00			4.0	1.00						
2 アスベスト対策		-	-			-	-						
3 ダニ・カビ等		-	-			-	-						
4 レジオネラ対策		-	-			-	-						
4.2 換気		3.0	0.39			3.3	0.38						
1 換気量		3.0	0.50			3.0	0.33						
2 自然換気性能		-	-			4.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50			3.0	0.33						
4 給気計画		-	-			-	-						
4.3 運用管理		5.0	0.02			-	-						
1 CO ₂ の監視		-	-			-	-						
2 喫煙の制御		5.0	1.00			-	-						
共用部禁煙						5.0	1.00	-	-				
Q2 サービス性能						—	0.30	-	-	2.9			
1 機能性						2.4	0.40	2.8	1.00	2.6			
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	3.0	0.60				
1 広さ・収納性		-	-			-	-						
2 高度情報通信設備対応		-	-			3.0	1.00						
3 バリアフリー計画		3.0	1.00			-	-						
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30			2.5	0.40						
1 広さ感・景観		-	-			4.0	0.50						
2 リフレッシュスペース		3.0	0.04			-	-						
3 内装計画		1.0	0.96			1.0	0.50						
1.3 維持管理		3.0	0.30			-	-						
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50			-	-						
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-								
3 衛生管理業務		-	-	-	-								
2 耐用性・信頼性						2.9	0.31	-	-	2.9			
2.1 耐震・免震						3.0	0.48	-	-				
1 耐震性		3.0	0.80			-	-						
2 免震・制振性能		3.0	0.20			-	-						
2.2 部品・部材の耐用年数		2.7	0.33			-	-						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23			-	-						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23			-	-						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.09			-	-						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08			-	-						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.15			-	-						
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23			-	-						
B以上使用、E不使用						5.0	0.15	-	-				

	2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.29	3.5	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり				3.0	0.03	4.0	0.50	
1			階高のゆとり	3.0	1.00	4.0	0.60	
2			空間の形状・自由さ	-	-	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.03	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.93	-	-	
1			空調配管の更新性	3.0	0.17	-	-	
2			給排水管の更新性	3.0	0.17	-	-	
3			電気配線の更新性	5.0	0.11	-	-	
4			通信配線の更新性	5.0	0.11	-	-	
5			設備機器の更新性	1.0	0.22	-	-	
6			バックアップスペースの確保	3.0	0.22	-	-	
構造材、仕上材を痛めずに修繕・更新できる								
仕上材を痛めずに修繕・更新できる								
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.31	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			・空地率96.37% ・水平投影面積率(ヒロティ)20.66% ・外壁対策面積率57.62%	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.34	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化			LED照明	4.3	0.66	-	-	4.3
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			LED照明	4.0		-		
集合住宅の評価				4.4		-		
4 効率的運用				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	0.96	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.04	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			パーティクルボード	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			壁・天井：木下地	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	
1			消火剤	-	-	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
3			冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			高効率機器使用	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮				2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.6	0.25	-	-	
1			雨水排水負荷低減	-	-	-	-	
2			污水处理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
3			交通負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1			騒音	3.0	1.00	-	-	
2			振動	-	-	-	-	
3			悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1			風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2			砂塵の抑制	3.0	-	-	-	
3			日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	
光害対策ガイドラインの過半を満足								

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周辺地域の要望もあり、景観に配慮した外観デザインとした。また住戸では2タイプ（1LDK・2LDK）計画し、入居者の快適性を重視した設計とした。

Q1 室内環境

- ・F☆☆☆☆の採用により汚染物質の最小化に努める。

Q2 サービス性能

- ・更新必要間隔の長い給排水配管を採用し耐久性に努めた。
- ・外壁の仕上げでは、耐用年数の長いタイル張とした。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・周辺景観に配慮した、外観デザインとした。

LR1 エネルギー

- ・各住戸の断熱性能を高めた。
- ・LED照明を室内外に採用した。また共用部の照明で制御機能を設定し省エネルギーに努めた。

LR2 資源・マテリアル

- ・躯体と仕上材が容易に分別可能となっている。（木下地）

LR3 敷地外環境

- ・駐車場と駐輪場を敷地内に設け、周辺の交通負荷の抑制に努めた。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称) 琴平2丁目マンション新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		69.9
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				74.7	0.40	29.88
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.17			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.01			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.01			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.23			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.3	0.35			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.12			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.12			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				72.7	0.20	14.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数